

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873500676
法人名	有限会社 SKR
事業所名	グループホームさくら
所在地	愛媛県伊予郡砥部町高尾田1008-6
自己評価作成日	平成22年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の方にとって、今何が必要かを職員間で話し合い、情報を共有した上でのケアに取り組んでいる。また、利用者本人と家族の要望や思いを日常的に聞くようにし、ケアの中で実践するように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 法人代表者の交代を機に、職員で話し合い、利用者からの「ありがとう」「感謝」という言葉を取り入れて事業所の理念を新たに「すべてに感謝 ありがとう」と作成された。
- 調査訪問日の午後「自宅に帰りたい」と言う利用者を、職員が車でご自宅に送り、ご本人がご自宅でご家族と過ごせるよう支援されていた。夕方には、職員が迎えに行くようになっているようで、ご家族とも相談しながら月2回程度、支援をされている。
- 朝食は、利用者の希望で月2回は、主食をパンにしておられ、毎朝、牛乳・乳酸菌飲料・バナナを付けて、水分補給や便秘予防に気を付けておられる。誕生日には、ご本人のお好きなメニューとケーキをお祝いをされている。利用者からは、お寿司やお刺身の希望が多いようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームさくら

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏 名

済川 浩志

評価完了日

2010 年 8月 31日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 昨年の代表者の交代に伴い、職員、利用者間で話し合い、新しいわかりやすい運営理念を作成した。すべての職員で理念を共有し、日々のケアで実践している。	
			(外部評価) 法人代表者の交代を機に、職員で話し合い、利用者からの「ありがとう」「感謝」という言葉を採り入れて事業所の理念を新たに「すべてに感謝 ありがとう」と作成された。理念は、額に入れて玄関に掲げておられた。さらに事業所が所在する地域の中の「地域密着型サービス事業所」として、どのようなことを目指していくのかということについてもこの機会に話し合ってみてはどうだろうか。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の神社の夏越しや、夏祭り、地方祭への参加、日々の散歩時の挨拶などを通して行なっている。	
			(外部評価) 朝・夕方の散歩の際には、畑仕事をされている方と挨拶を交わしたり、会話をされている。秋の地方祭には、お神輿をベランダに出て見物されたり、子ども達にお菓子を配られた。又、地域の区長の方から案内をいただき、神社の「夏越し」に出かけられた。事業所内で行われた「夏祭り」は、利用者・職員も浴衣を着て、地域のボランティアの方と一緒に盆踊りや野球拳、ゲームを行い楽しい時間を過ごされた。地域の小学生が訪問してくれた際には、小学生が紙芝居を見せてくれたり、一緒に折り紙を折ったりされた。子ども達が肩たたきをしてくれたことを利用者はたいへん喜ばれたようだ。介護相談員の方も、ボランティアとして紙芝居等を見せに来てくださっている。	管理者は、地域の人達に「ホームに気軽に立ち寄ってもらいたい」と考えておられる。行事に案内する等、地域の方達が事業所に訪れるような機会を作ったり、地域の方と一緒に活動する等、かかわる機会を積極的に作り、そのようなことをきっかけにして、事業所が目指す「すべての人が、あたりまえの地域での暮らしを実現するためのネットワーク作り」への取り組みをすすめていかれてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議のときに、認知症の方への具体的な接し方、介護技術の基本などの勉強会を行なった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の中で評価への取り組みについて、民生委員、利用者家族等に具体的に報告している。また、その中で意見をいただき実践に活かしている。	
			(外部評価) 法人代表者の交代後から、運営推進会議を「朋志会」と名付け、2カ月ごとの会議の開催に努めておられる。管理者は、会議を「認知症や介護に関する知識等の情報を発信できる会議にしたい」と考えておられ、看護師資格を有する職員が講師になり「インフルエンザ対策」「認知症高齢者への具体的な接し方」等を勉強されたり、DVDを見ながら「食事、排泄、入浴介助の基本」について、町の担当者や民生委員、町会議員の方やご家族とともに勉強されている。又、避難訓練や夏祭り重ねて会議を行い、事業所の取り組みを見ていただき、ご意見をうかがうようにされている。	会議のメンバーを拡げたり、議題についても参加者のご意見や要望をうかがってみてはどうだろうか。事業所からの報告等も工夫して、事業所のケアサービスについて具体的にご意見や感想をうかがってみてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には町の担当者の方に毎回出席していただいて、時に意見をいただいている。また、ケアマネジャー連絡会への出席、介護相談員の訪問がある。	
			(外部評価) 運営推進会議時、事業所からの報告に対して町の担当者の方から「2カ月ごとの会議の開催をすすめること」や「会議と行事を同時に行ってはどうか。地域の人が集まることが重要」等、アドバイスをいただいた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についての正しい理解が出来るように、月1回のミーティング時に話し合っている。言葉の拘束についても気をつけている。	
			(外部評価) 日中、玄関に施錠はせず、センサーで音が鳴り、人の出入りが分かるようになっている。利用者が、気ままに出かけるような場合には、職員と一緒に歩き、ご本人との会話や顔つき等、様子を見ながらホームに戻ることをすすめるようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての正しい理解が出来るように月1回のミーティング時にも話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在のところ必要な方はいないが地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度について学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用を予定している方については、ホームの見学や自宅への訪問をし、話し合いの機会を多く持ち、質問内容についても丁寧に説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	(自己評価) 家族には面会時や日常生活の中で要望や不安な事などを話していただいている。その内容については職員ミーティングの中で話し合っている。 (外部評価) ご家族の来訪時、管理者は、ご本人の日々の様子を伝え、意見や要望を聞くようにされている。又、遠くに住むご家族には、1, 2カ月に一回、電話で報告をされている。事業所通信「さくら便り」は、行事や日常生活の様子を写真を多く載せて作成されており、1, 2カ月ごとにご家族に送付されている。運営推進会議の案内や夏祭り、クリスマス会にはご家族もともに楽しめるよう全家族に案内されている。	管理者は「ご家族の本音を聞かせてほしい」と考えておられる。たとえば、事業所での外出の支援や健康・安全面についての取り組み、又、職員の利用者への対応やケア等、ご家族が知りたいことの把握に努められ、情報提供等も工夫して、事業所のケアサービスについての意見を具体的に聞けるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 申送り時やミーティング時、また随時意見を聞く場を設けている。 (外部評価) ミーティング時に、看護師資格を有する職員が講師になり「インフルエンザやノロウィルス」の勉強をされている。職員の提案から、事業所内で行う「夏祭り」には、利用者や職員は、浴衣を着ることにされ、恒例になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の性格や勤務状況を把握するように努めている。また個人面談を行い具体的な意見を聞き就業環境に反映している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修会の参加を呼びかけたり、研修ビデオを見たり、ホームにも、介護の本やDVDを置いていつでも利用出来るようにしている。また、運営推進会議での勉強会への参加を呼びかけている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣の施設に挨拶をしてまわり、ネットワーク作りに努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族、本人から生活歴や要望を聞き把握できるように話し合いを持つように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族の要望を聞き事業所としての対応などを詳しく説明している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の要望や必要としているものを理解し、事業所としてどのような対応が出来るかを話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の思いや不安、また、好きなこと、食べ物、得意なことなどを把握し生活の中で支えあう関係を築くようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃から家族の方と話す機会を多く作り、本人からの希望や、訴えなどを家族に相談しながら、協力し合える関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の方を中心に、なじみの人への電話や手紙、時には一時帰宅を希望される方は、職員と家族が話し合い、帰宅できるよう支援している。 (外部評価) 調査訪問日の午後「自宅に帰りたい」と言う利用者を、職員が車でご自宅に送り、ご本人がご自宅でご家族と過ごせるよう支援されていた。夕方には、職員が迎えに行くようになっているようで、ご家族とも相談しながら月2回程度、支援をされている。又、入居前に住んでいた家の近所の方が訪ねて来られる方もある。ご家族と理髪店や外食に行かれる方や職員が同行して、なじみの美容院を続けて利用されている方も複数おられる。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常の会話の中から話を聞いたり、井戸端会議や食事やおやつの時も、空気を読むように努めている。争いごとになった時にはすぐに仲介している。。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、家族の方からの相談があれば、のっている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の方と過ごす時間を多くして、その中で本人の希望や関心を聞くように努めている。また、日誌等ではできるだけ本人の言葉で記録するように努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの「食べたい物」「行きたい所」「何がしたい」等の希望や意向を一枚の表にして、職員個々が情報を書き入れ、介護計画に採り入れるようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 契約のときや、面会時に、家族から生活歴や生活環境を聞き把握するように努めている。本人からも日常生活の中で話を聞くようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活のリズムを把握するとともに、会話する機会を多くもち現状を把握するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			職員が日常生活の中から、本人の要望を聞き、また、面会時に家族と話し合っている。その内容を職員間でミーティング時に意見を出し合い、介護計画を作成している。	
			(外部評価)	
			「本人の思いを大切に」「楽しく暮らして欲しい」等のご家族の願いや、利用者ご本人の「買い物に行きたい」「カラオケで歌う」等の希望を大切にして、職員で話し合い、介護計画を作成されている。主治医からの食事や歩行についての助言は、ご家族とも相談して、ご本人の希望等とも合わせながら採り入れておられる。モニタリングは、3カ月毎に行い、介護計画は6カ月毎に見直すようにされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別に記録をし、必要事項は管理日誌や申し送りノートに記入し、毎出勤時に確認するようにしている。その中で必要であれば毎月のミーティング時にカンファレンスを行い情報の共有を図り見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			本人や家族の状況に応じて、柔軟な対応ができるように心がけている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			運営推進会議を活用したり、地域の方、地域の職員等と情報交換している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 2週間ごとに1度の協力医療機関からの往診がある。 以前からのかかりつけ医で継続される方もいる。緊急 時には24時間対応で往診していただいている。	
			(外部評価) ご本人、ご家族の希望で、現在は、全利用者が協力医 院の往診を受けておられる。以前からかかっている専 門医の受診時には、職員が同行されている。歯科の訪 問診療を受けている利用者もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師資格をもつ職員が1週間に2回以上、また、緊 急時や必要時には、すぐに対応できる体制をとって おり、日常の健康管理など、いつでも相談できるよう にしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は医療機関と情報交換を行い、なるべく早期退 院できるよう医療機関、家族とも相談している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルに対して協力医療機関の医師や家族などと 必要に応じて話し合いを何度も行い柔軟な対応が行え るようにしている。	
			(外部評価) 入居時に、希望があれば看取りまで支援できることを 説明されており、事業所の看とりの指針についてもご 家族に示して、ご家族の協力も得られるよう、取り組 みをすすめていかれてはどうか。又、ご家族の 不安や心配ごと等についても、聞き取るような機会も 作っていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 必要時やミーティング時に対応の訓練をしている。緊急時のマニュアルを作成し職員全体に周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議の中で夜間想定 of 通報訓練、避難訓練、消火訓練を実施した。職員全員、家族、民生委員、役場担当者、消防署に参加いただき、意見交換している。 (外部評価) 夜間を想定した避難訓練では、夜勤者が、利用者9名を居室から事業所前の空き地まで避難誘導を行い、所要時間を計ってみられた。職員は日頃から、掲示されている避難誘導のマニュアルを確認されているようだが「いざとなると慌ててしまう」と話しておられた。消防署の方や見学していただいた町の担当者・民生委員の方からも、いざという時の「近隣や地域との協力体制作り」についてアドバイスをいただいた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員はミーティングの中で話合い、利用者一人ひとりに合った声掛けをするように努めている。 (外部評価) 管理者は、日頃から職員に「守秘義務」を守ることの大切さや、利用者に「ちゃん付けをしない。姓で呼ぶこと」を話しておられる。職員は「笑顔」と「利用者の話をよく聴く」ことに心がけておられる。調査訪問日、職員は、利用者に丁寧な言葉遣いがかかわっておられる様子がうかがえた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者本人の思いや、希望をできるかぎり受け止め、自己決定できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者本人のペースで日常生活できるように努めている。できる限り本人の希望にそえるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣される時には着る服などもお聞きして、本人に選んでもらっている。理容、美容についても、要望をお聞きするように努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日常生活の中でどんな物が食べたいかお聞きして、できるかぎり要望にそえるようにしている。調理の前の準備や、後片付けもできる限り一緒に行なうようにしている。 (外部評価) 職員は、毎日新鮮な食材を買って来られ、その日の調理担当者が利用者の希望も聞きながらメニューを決めておられる。朝食は、利用者の希望で月2回は、主食をパンにしておられ、毎朝、牛乳・乳酸菌飲料・バナナを付けて、水分補給や便秘予防に気を付けておられる。調査訪問日の昼食時は、ご自分でお茶を注いだり、ご自分の食器を下膳されている利用者の様子が見られた。野菜の皮むきや食器拭きをされる利用者もある。誕生日には、ご本人のお好きなメニューとケーキでお祝いをされている。利用者からは、お寿司やお刺身の希望が多いようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量を毎食後記入している。月初めには体重測定を行い、食事は一汁三品から四品を目安に調理している。また、必要時には水分補給量を記録をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に、口腔ケアの流れが自然に出来るように声掛けをし、能力に応じて介助している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄を記録しパターンを分析し、職員で共有し、ご本人に合ったアプローチを考え支援している。	
			(外部評価)	
			日中は、利用者全員の方がトイレで排泄できるように支援されている。職員が声をかけてトイレに誘導されたり、ご自分でトイレに行く方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			必要に応じて繊維の多い食品を取り入れたり、歩行などの運動や腹部マッサージをしたりしている。それでも改善できない場合は主治医に相談している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			日曜日は入浴はないが、他の曜日は昼からの希望が多いので、希望を聞きながら支援している。また入浴を拒否される方には、声掛けを工夫しながら支援している。	
			(外部評価)	
			一日おきに入浴するようになっているが、希望があれば、日曜日以外は、毎日入浴できるよう準備をされている。ご自分で着替えの準備をされる方もある。介護度重度の利用者がおられる場合は、浴槽で温まることができるように、職員2名体制で支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			日中は本人の希望で体操や歌、散歩等で活動的に動けるように支援している。本人のペースで休息したり、眠れるように支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ファイルを作り職員全体が利用者の薬の効能、副作用について把握できるよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の出来ること、興味があること、好きなことを把握しながら、集団の中でその方の役割を活かせるよう声掛けをしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩は希望時にはいつも行っている。また、水やりや花を見に歩かれたり、車椅子も利用し、出来るだけ外の空気を吸えるよう工夫している。 (外部評価) 朝・夕方に散歩に出かけておられ、又、玄関前の花の水やりやベランダに出て外気に触れることができるような機会作りに努めておられる。又、利用者と相談しながら、季節に応じて初詣、梅まつり、椿まつり、さつき展等にも出かけて楽しんでおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望を大切にしながら買物の日や買出しの際の付き添いの声かけをし支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要時はいつでも、電話をかけたり、手紙を出したり、できるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 和室には冬にはこたつを置き、季節感を出している。リビングには季節の花を利用者に生けて頂き飾る事がある。居室前には部屋を間違えないように名前と顔写真を掲示している。	
			(外部評価) 季節の花のプランターが玄関前のスロープに並べて飾られていた。調査訪問日の昼食後には、利用者個々が居間のソファや椅子でくつろいでおられたり、和室で横になって休んでおられる利用者の様子が見られた。居間や食堂には季節の花が所々に飾られてあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや和室を利用されたり食卓や居室で思い思いに過ごせるようなスペースを設けている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) テレビ、時計、家族の写真などなじみの物を持ってこられている。	
			(外部評価) 各居室には花の名前が付いており、居室の入り口にはそれぞれの花のイラストとご本人の笑顔の写真を飾っておられた。ベッドは、木製でタンスとともに備え付けになっている。ご家族が持って来られた娘さんやお孫さんの写真を飾っておられたり、行事時の写真等、ご本人が選んだ写真を飾っておられた。職員と一緒に居室の掃除をされる利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) その人にとって何がわかりにくいかを探し出し、職員間で話し合い改善点があればその都度対応している。	